

2025年度最終審査結果 受賞テーマとデザイン提案

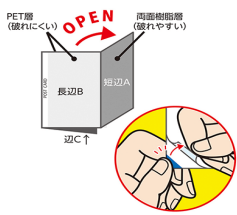
テーマ

個別化された情報を正確安全に届けられる、
印字とフィルム圧着書面
企業：昭和印刷株式会社（江戸川区）

最優秀賞

提案

「体験をコレクションする」サービスの
開発とブランド展開
提案者：榎本清孝（アートディレクター）



「自社システム開発とデータ印字技術・オフセット印刷技術等すべてが融合した事業で、郵便法に則った「フィルム圧着葉書型資格確認書」を実用化。他の用途としても活用を希望している。近年、新規事業へ投資するなど新しい取組みに挑戦していきたいとの意欲を持つ企業。

システム開発による個別化情報の印字と、破れないフィルム圧着はがきを活用した「体験をコレクションする」サービスの提案。進化し続ける時代だからこそ“心地よい手間とつながりを楽しむ”をブランドコンセプトに、BtoBtoC事業として展開し、はがき媒体の価値を再定義する。



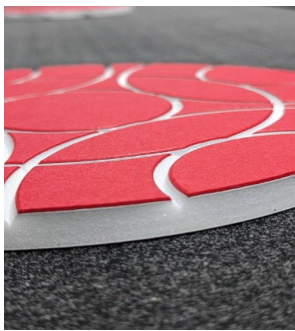
テーマ

デジタルの精度と手仕事の技量が共存する加工・生産体制
企業：株式会社サルトル（新宿区）

優秀賞

提案

加工精度を軸とした新たな事業モデルの提案
提案者：平野北斗（ディレクター）、柳沢駿（プロダクトデザイナー）、明里圭修（アートディレクター）



加工技術の高度化だけでなく、伝統的な手仕事の継承や職人育成にも力を入れている。また、素材の源流である林業や産地と連携し、素材を無駄なく活かす設計・加工・生産体制の構築を目指している。

デジタル精密加工と手加工が行き来する独自の加工体制に着目し、加工技術そのものを事業資産として再定義する事業モデルを提案。加工を「KAKOE」として整理・定義し、技術の組み合わせを可視化することで、下請け的受注から相談・共創を起点とした一次請けへと接続し、既存事業の強化を目指す。



テーマ

精密金型メーカーが誇る高精度な
バイオプラスチック射出成形技術
企業：日進精機株式会社（大田区）

優秀賞

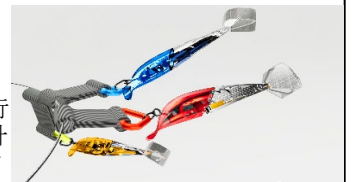
提案

生分解性樹脂と精密金型技術を活用した
人を自然へ導くギアの提案
提案者：三谷悠人（デザインエンジニア）、鍋田知希（デザイナー）



ポリ乳酸(PLA)プラスチックは、「乳酸菌(ラクトバシラス)+でんぷん」から作られた植物由来の生分解性樹脂である。すでに開発済みのバイオプラスチックグラスでは、コンポストでは約3ヶ月、土では約5年、海では約10年で水とCO2に分解される特性を持つ。

生分解性バイオマス樹脂PLAと精密金型技術を活かしたルアーブランド「PLureA」。日常的に持ち歩けるルアーを通じて人と自然の関係を再接続し、行為の循環を体験として設計する。再成形サービスを含むtoC展開を起点に、素材・技術価値の再定義と事業拡張を目指す。



2026年度 東京ビジネスデザインアワードの流れ(予定)

企業からテーマを募集
(4月8日～6月25日)

都内ものづくり中小企業から、自社保有の高度な技術や特殊な素材などを「テーマ」として募集。

テーマ発表
(9月)

審査委員会が10テーマ程度を選定し、HP等にて発表。

デザイナーからの提案募集
(9月～10月)

選定テーマに対し、デザイナーがあらゆる可能性を検討し、新たな用途開発を軸とした事業全体のデザインを提案。

一次審査・二次審査
(11月)

一次審査・二次審査を経て、テーマ毎に企業とデザイナーのマッチングが成立したものを「テーマ賞」として選出。

最終審査(実現化プレゼンテーション審査)・
表彰式(2027年2月)

テーマ賞の中からデザイナーの公開プレゼンテーションにより、「最優秀賞」・「優秀賞」を決定。